

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月20日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871100178		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	水海道ケアセンターそよ風	ユニット名	さくら
所在地	〒303-0034 茨城県常総市水海道天満町1785-1		
自己評価作成日	平成27年7月27日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871100178-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871100178-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年12月17日	評価機関 決 済 日	平成28年4月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>開設当初より、町内会に加入しており、地域との交流を図っております。 正月には、町内の演芸部の方が来所して下さり、獅子舞に健康を祈念して頂き、新年のお祝いをさせて頂いております。7月の祇園祭には子供神輿や山車が施設裏通りまで来て下さり、馴染みの慣わしの見物をさせて頂いております。また、年に2回市内一斉清掃にも参加させて頂き、地域住民との交流を図っております。 今まで以上に地域住民との交流の機会を多く設けたことで、住民の皆様から声をかけて頂くことが多くなっております。 伝統芸能が引継がれ、子供の声が響き渡るこの町で暮らすことを今後も支援してまいりたいと思います。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は「地域の人と暮らす 大好きなこの町 水海道で」を理念に掲げ、地域との交流を大切にしている。 見学者からも「家庭にいるみたいね」と言われるように、あたたかい家庭の雰囲気大切にしている。 事業所の入居者は全員常総市の住民で、事業所の周辺散歩時、近隣住民から「元気になっているか」などと声を掛けてもらったり、市の行事である祇園祭には子供神輿や山車が事業所まで来てくれ、利用者も地域の一員として楽しんでいる。 毎月「身体拘束」や「感染症」などの内部研修を行い、職員の資質向上に努めている。 看取り介護も受け入れる方針であり、職員研修などを実施しながら準備をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念として『地域の人と暮らす 大好きなこの町 水海道で』を掲げている。職員間で共有し、地域の方とのふれあいや交流を大切に支援している。	「地域の人と暮らす 大好きなこの町 水海道で」を理念として掲げている。利用者全員が常総市出身者で、生まれ育った地域で暮らせるように支援している。理念はユニットの事務室やエレベーターホールなどに掲示したり、月1回のグループホーム会議で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の中には町内から入居されている方もおり、施設周辺を散歩し、ご近所の方とコミュニケーションを取る等心がけている。また、町内の飲食店へ出前を依頼したり、外食に出掛ける等、食べるのが楽しみの一つとなっている。	事業所は町内会に加入し、年2回の地域一斉清掃に参加している。散歩時には住民から声をかけてもらうなど、地域住民との交流の機会が持てるよう支援している。紙芝居の読み聞かせや地域の中学生の来訪、正月には獅子舞、7月には祇園祭の子ども神輿や山車が事業所に畜るなど、利用者の楽しみとなっている。地域のスーパーへ買い物にでかけ、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時等において、認知症の方への理解が得られるように周辺症状・中核症状について具体的にご説明をさせて頂き、支援の方法等もお伝えするようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催。前月・当月のサービス内容及び利用者の健康状態や地域参加報告などを行っている。また、感染症や健康管理などの対応方法、外部評価等の結果報告も行い参加者よりご意見を頂いている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、町内会長、老人会副会長が参加して2ヶ月に1回開催している。会議では管理者が感染症対策や健康管理について説明し、外からのインフルエンザの感染予防のため、長期間面会制限をしたところ、家族等から不満の声が上がったため、会議で検討してキーパーソンが短時間面会できるように対応している。家族等からは居室の温度管理やエアコンのフィルター交換などの意見等があるほか、川崎での虐待事例から、事業所では「身体拘束」についての取り組みを実施していることを報告している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者が明確になっているため、相談業務が行いやすくなっている。利用者の健康状態が悪化した際や入居前の受入れについて等相談し、的確な助言を頂くことができている。	市担当者に事業所の運営状況を報告したり、病院からバルーンカテーテルを留置したまま退院してくる利用者や胃瘻、痰吸引など、医療ニーズが高い利用者の受け入れ対応について相談している。 介護保険法改定に伴う処遇改善などの書類上の手続きについて相談し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時に身体拘束をしない取組みを実践していることを契約者に説明し同意を得ている。身体拘束の具体的な行為に関しては正しい理解が得られるよう、職員間でも勉強会を行っている。日々の生活の中で、身体拘束をしないケアを実践している。	入居時に家族等には身体拘束をしない取組みをしていることを説明している。 職員は「身体拘束ゼロへの手引き」の読み合わせを月1回実施し、身体拘束の具体的な行為について理解を深めている。 研修の効果は「不適切なケア自己チェックシート」を用いて確認し、理解に問題がある職員に対しては、管理者が個別指導を行い、身体拘束のないケアに努めている。 事業所は2階にあるため、家族等の承諾を得て階段の入口を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、職員はマニュアルを基に定期的に勉強会を実施している。利用者様が生活する中で職員は『気付く』ことを意識し、気づいた職員は一人では抱え込まず上司に相談することを伝達している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に権利擁護の制度を利用されている方がいる。入居当初から担当者に変更がない為、利用者様・職員との信頼関係が出来ている。管理者は全職員に対し、制度の必要性等を説明し、利用者が気持ち良く生活できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明に理解が得られるよう、声のトーンや話す速度に配慮している。その都度、不明なことがないか伺いながら行い、理解・納得して頂けるように時間をかけて行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常生活から、ご家族様から面会時等に意見や要望が伺えるよう、職員は積極的にコミュニケーションが図れるようにしている。また、運営推進会議や家族会において意見交換を行い、運営に反映している。	運営推進会議に家族等の代表が交代で参加しているほか、家族等の面会時に意見や要望を汲みあげるよう努めている。 年2回開催する家族会では、無記名のアンケートを実施し、欠席者からは郵送により意見を聴くようにしている。 家族等から、「職員の出入りがある際には、写真などを掲示して欲しい」という意見を受け、エレベーターホールに写真を掲載したり、「そよ風たより」に載せるなどで対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループ会議を実施している。業務改善やケアカンファレンスを行い、職員間での意見交換の場となっている。新たな提案等があった場合は、その提案が反映できるように援助している。	月1回のグループホーム会議では、職員から介護に対する意見や提案などが出され、話し合いが活発に行われている。 年2回センター長と職員との面接の機会を設け、職員の意向の把握に努めるとともに、出た意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態がパート・契約職員に契約更改制度があり、契約期間満了前に面談を実施し継続の意思確認をし、勤務状況良好の者には職種ごとの評価チェック表を基に給与の見直しが行われる。社員登用制度は年2回あり、正社員は人事考課制度により給与の見直しが行われている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月実施している。研修に参加できなかった職員は、研修に参加した職員から指導を受け研修報告書を提出するようにしている。外部研修では、なるべく多くの職員が学べるよう、育成にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内には系列の10ヶ所の事業所がある。内7ヶ所の事業所がグループホームを運営している。毎月協議会として管理者や計画作成担当者が集合し、サービスの質の向上等について話し合い等を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の入居前の生活歴等を詳しく把握するために、入居時に【生活履歴シート】をご家族様に記入して頂いている。入居後の生活では、本人の要望等を傾聴しながら、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居後数日が経過した時点で、ホームでの生活の様子を伝えている。また、入居後は利用者の状態把握に努めている。家族との信頼関係の構築の為に、面会時は、職員から積極的にお声かけし、近況報告等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後一定の期間は利用者の状態把握に努め、支援経過を細かく取るように義務付けている。入居前の実態調査で把握できなかった事項に関しては、家族に確認し、必要であればサービスの提案をさせて頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の希望に沿った支援を心がけ、利用者からの学び・気づきを日々の生活に生かすようにしている。また、常に感謝の気持ちを言葉で伝え、互いに共存し合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際は、笑顔でお出迎えし、必ずコミュニケーションを図るように心がけている。会話の中で利用者の生活状況等を伝え、職員は家族と一体となり利用者を支えていく関係作りを働きかける。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や地域住民の方が面会に来られた際、職員は歓迎しおもてなしをさせて頂いている。利用者居室で面会して頂き、ゆっくり過ごしていただきお茶やお菓子を召し上がって頂いている。	事業所は独自に開発した「生活歴シート」を活用し、利用者を取りまくこれまでの人間関係や社会との関係の把握に努めている。 利用者の友人や知人が来訪した際は、職員はお茶やお菓子で接待するなどして再来訪を促している。 馴染みの美容室へ行ったり、反対に理・美容師が来訪してくれるほか、受診の帰りに馴染みの食堂で食事をして来るなど、関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や社交性を踏まえ、気の合う仲間が出来るように職員が仲介に入り、会話のきっかけ作りを行っている。利用者の中には、以前から顔見知りの方がいらっしゃる方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等の理由でホームに戻ることが困難になった場合でも『そよ風に戻りたい』とご希望される方が多くいらっしゃる。ご本人の容態が安定したら、いつでもご相談に応じられる体制があることをご家族に説明し、フォロー・支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者一人ひとりに常に寄り添い、日常生活の中で本人の意向や希望等を伺えるように傾聴しながら援助を行っている。本人の自己決定の場を尊重し、支援する。	職員は日々の暮らしの中の会話や行動から利用者の希望や意向を把握するよう努めている。思いの表出が困難な利用者の場合は、表情や仕草のほか「生活歴シート」や家族等から話を聴いて把握し、利用者本位に考えて支援している。把握した情報は、カンファレンスや「申し送りノート」を利用して職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネからご本人の生活歴等の生活習慣に関して情報収集をしっかりと行い、職員間で情報共有を図る。また、利用者一人ひとりがこれまでの生活を維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者全員がホーム中心の生活スケジュールに沿って生活するのではなく、職員が個々のペースに合わせることで穏やかな生活を送ることができている。個々が有する能力を活かすことができるように心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの他に利用者の状態が変化した場合にも随時カンファレンスを開催している。現状に即した介護計画を作成。カンファレンスでは、職員各々の『気付き』を尊重し、積極的に意見を出せる場を作り、介護計画に反映している。	介護計画は利用者毎の担当職員や家族等の意見を参考にケアカンファレンスを開催し、計画作成担当者が作成している。介護計画の短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月から1年毎に見直している。利用者の状況変化に応じ随時、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化でも口頭で申し送りし、個人記録や管理日誌等に記載し職員間で情報共有をしている。職員同士の話し合いをこまめに実施しすぐに援助が必要であれば実践し、ケアカンファレンスの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族から宿泊の希望があった際は、急な場合でも要望に応じている。食事の時間帯に面会に来られた家族には利用者と一緒に召し上がって頂いたり、喫煙や飲酒等の希望にも対応している。また、通院の要望にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者にとって馴染の商店に出掛け、入居前と変わらない関係性が保てるようにしている。また、町内会に入会しており、町のイベント情報が詳しくわかるようになってきている。大きなイベントの前には事前に連絡を下さり、恒例行事は町内の方と一緒に楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を伺い、馴染みの病院へ受診することができるように対応している。利用者によっては、2ヶ所の病院を受診している方もいる。入院時には、病院へ情報提供をし、退院時は診療情報提供書、看護サマリー等を頂いている。	事業所は利用者や家族等が入居前からのかかりつけ医への受診を希望する場合は可能とし、その際は家族等の付き添いを基本としている。 協力医療機関の医師による月2回の訪問診療と、協力医療機関の看護師による週1回の訪問により、利用者の健康管理を支援している。 受診には家族等が同席したり、同席できない場合は受診結果や薬の変更などについて、電話や来訪時に報告するとともに支援経過記録に記載している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関が月2回（隔週）の往診、週1回の訪問看護をしてくださる他、利用者の体調の変化等があった際は、直接医師に連絡を取り、指示を頂ける体制が確立されている。日勤帯においては、デイサービスの看護師にも相談できる体制となっている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院して際は、出来る限り毎日面会に行き、精神面での支えとなることができるように支援している。訪問時には、病院関係者とも面会し情報提供を頂き、早期退院が出来るように働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談又は契約時に看取りの体制の指針が整い、最期までホームで過ごしていただくことが可能になった旨の説明を行い、契約者との文書の取直しを行っている。主治医等に相談し、チームで援助し家族への情報提供をこまめに行っている。職員間では、勉強会を行う等し、本人や家族が納得いけるケアが行えるように支援している。	事業所は入居相談や契約時に、看取りの対応が可能であることを説明している。利用者の状況が変化した場合は、こまめに家族等と連絡を取って対応している。事業所は2年前の看取り経験を活かして看取りに関する資料を作成するとともに、職員の勉強会を月1回開催し、欠席者に対しても資料確認後の報告書を提出してもらい、職員が看取りに対応できるよう準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の緊急時に備え、応急手当や初期対応に関して日常的に話し合いを行い、月に1度職員全体で勉強会を実施している。また急変時はデイサービスの看護職員が対応できる体制となっており、サポート体制が出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、消火・通報訓練を含む総合避難訓練（平成27年度より2回/年）、自然災害・夜間想定を定期的実施している。地域の皆様には、運営推進会議等を通して、区長さんや防犯連絡会さん等の協力が得られるよう協力体制を築いている。	事業所は総合避難訓練を年2回と、自然災害や夜間想定避難訓練を年2回、計4回実施しており、消防団員や区長、老人会副会長（防災連絡会代表でもある）などの地域住民の参加も得ている。訓練終了後に防災訓練報告書を作成し、反省点や課題を抽出しているが、災害時の避難経路や利用者の誘導順位、階段使用時の避難方法の習得が不十分である。米や缶詰のパン、缶詰などは1週間分、飲料水は2週間分を備蓄するとともに、一覧表を作成して賞味期限を管理している。	事業所は2階にあるので、夜間の出火に備えて避難経路や避難場所の確認、誘導する利用者の順番などを話し合うことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせた言葉かけや接遇で支援している。職員は利用者の言動を否定することなく受け止め、失敗があった時や排泄誘導をする際には、周囲に配慮し分からないようにさりげない対応を取っている。記録物等の書類は、利用者や面会者の目に触れないよう取り扱いを徹底している。	職員は一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや接し方をするよう努力しており、苗字で呼ぶようにしている。 失禁などがあった場合は、周りに気づかれないよう配慮している。 広報誌への写真掲載を含め、個人情報の取り扱いについては、家族等から書面にて承諾を得ている。 個人情報に関する書類は、職員室の鍵のかかる書棚に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を構築していく中で、利用者本人が希望や思いを表せる場面を作り、職員はその希望や思いを知るように努めている。おやつや飲み物、入浴や衣服等はその都度希望を伺い、利用者によっては選択肢を提示し自己決定を出来るように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに応じた対応を行っている。『ゆっくり寝ていたい』『お粥(パン)が食べたい』『買い物に行きたい』『外食に行きたい』等の希望に出来るだけ即応し、職員側の決まり事を優先させない支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは利用者の好みを聞き、職員が援助しながら行っている。女性利用者は、洗面台の前で髪を梳かし、洗顔後は化粧水やクリームをつける、髪を定期的に染める等行っている。男性は、髭を剃る等行い、身だしなみに気を配り生活されている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々によって食事形態も異なり、ミキサー食の方にも盛り付け等に留意しながら食事の準備を行っている。食後は、下膳やおぼん拭き、テーブル拭き等を職員と一緒にしている。また、近隣のスーパー等に職員と一緒に買い物へ行き旬の果物などを購入する等心がけている。	献立は本社で立てているが、栄養士が事業所毎に利用者の苦手なものやアレルギーなどを考慮して代替食にするなどで献立を作成している。事業所は利用者が食事の匂いや盛り付けなどから食事を楽しんでもらえるよう工夫するとともに、一緒にテーブルで会話をしながら楽しい時間となるよう配慮している。利用者は職員と一緒にテーブル拭きなど、能力に応じた役割を担っている。職員は利用者の馴染みの店からの出前や外食、近隣のスーパーで購入した果物などを楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー等が詳細に計算された栄養バランスのとれた食事の提供をし、利用者各々に応じた調理方法、食事形態で提供している。水分摂取量に関しては、1日のインアウト量の確認を行い、脱水等に注意している。飲み物に関しては、好んで飲んで頂けるもので提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にてケアができる方には、声掛け・見守りにて対応し、援助が必要な方には利用者個々に合った用具を用いて職員が援助を行っている。うがいができない方には、状況によっては、吸引器を用いた援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、各々の時間帯に応じたトイレ誘導・声掛けを行っている。尿意・便意のある方には、随時援助を行い、ない方には排泄の失敗を減らすために、声掛けし援助を行っている。日中は、なるべくトイレに座って排泄して頂くように支援している。	排泄パターンチェック表により利用者の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。失敗した場合も羞恥心や不安感を持たせないようさりげなくトイレに誘導して対処している。おむつ対応の利用者やリハビリパンツの利用者も含め、トイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに乳製品や食物繊維を多く含んだもの食品を取り入れ、薬品には頼らず自然排便が促せるように支援している。便秘になってしまった場合は、医師と相談し処方されている内服薬で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせた援助を行っている。男性職員を苦手とする利用者もいるため、女性職員が援助する等留意している。自己にて洗身等できるところは自分で行って頂き、出来ないところへの援助を行うことと職員間で統一支援している。	入浴は週3回を基本としているが、毎日入浴を希望する利用者にも対応している。事業所は入浴剤や季節に応じて菖蒲湯、柚子湯などで入浴が楽しみとなるよう工夫している。異性の職員を苦手とする利用者には同性の職員で対応し、不安なく入浴ができるよう対応している。入浴を拒否する利用者に対し、声かけの時間をずらしたり、職員を替えてみるほか、併設する通所介護事業所の浴槽が大きいので「大浴場に行こう」と誘うなどで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターン等を把握し、昼夜逆転が起こらないように注意している。利用者の体調等によって、昼寝を取り入れることや日中の活動時間を多くし夜間はしっかりと休息して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が使用している薬の効果・作用を理解し服薬支援を行っている。処方変更になった場合は、体調変化の有無・詳細を細かく記入し、状態把握に努め体調管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者個人の生活歴を把握し、各々が役割を持って生活できるよう支援している。気分転換に、外出し近隣のスーパーへ買い物に行ったり、散歩に出かけるなどを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、買い物や外食へ出かけている。ドライブは、皆さんで出掛けて頂き、四季の移ろいを肌で感じて頂けるように支援している。ドライブ以外にも定期的に施設周辺の散歩を行い、近所の個人商店や公園に出掛け、近隣の方との交流も図っている。	天気の良い日は、グループホームの周辺を散歩したり、近隣の商店へ職員と一緒にでかけ、買い物を楽しんでいる。 花見や筑波山へのドライブなど、利用者が外出できるように年間計画を作成し、外出している。 車いす利用者も併設する通所介護事業所にある車いす対応の車両を利用して外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内にて生活している時は、お金は所持していないが、外出するときは少額のお小遣いを持参し出掛けている。買い物では買いたい物があるときは、ご自身で支払いして頂けるように見守り支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどを利用者を書いてもらい家族とのつながりを感じて頂けるように支援している。利用者本人が家族や兄弟へ連絡を希望された場合は、事務所内の電話を使用して頂き、かけて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの障子が強い日差しを和らげている。利用者が落ち着いて生活して頂けるように、ソファー等で自由に過ごして頂いている。廊下は広く、車イスの利用者が自由に行き来することができ、風呂、トイレ、廊下等の必要なところに手すりが設置されており安全に配慮されている。また、夏場の暑さ対策として、ベランダ側の窓にすだれを下げ、打水をする等行っている。	居間には利用者の作品や外出時の写真、季節を感じさせるイラストなどが飾られている。 食堂ホールには大きな窓があり、障子やすだれで日差しを調整しているほか、ソファーやテレビ、加湿器を配置して感染症予防に配慮しながら寛げる空間となっている。 廊下や風呂、トイレには手摺りが設置されており、利用者が安全に移動できるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファや各テーブルでは、利用者同士が自由に会話し、テレビを見たり、談笑したり、読書等をして思い思いに生活することができている。居室ドアは自由に開閉でき、一人の空間が作れるようになっている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は、自宅で使用されていた物を、寝具類は使い慣れたものを持ち込んで頂けるようにご家族様の理解・協力をお願いしている。使い慣れたものを使用することで本人が落ち着き、安心して生活することができている。	居室には大きな収納スペースが備え付けられており、衣類などが収められている。 利用者は馴染みのベッドやソファ、机、テレビなどを持ち込み、自由に家具等を配置して心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段に続くドアや汚物室、浴室等の危険個所には鍵をかけて対応している。その他のスペースは自由に歩行して頂けるように支援している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 水海道ケアセンターそよ風

作成日 平成28年4月25日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	事業所は2階にあるので、夜間の出火に備えて避難経路や避難場所の確認、誘導する利用者の順番等を話し合うことを期待する。	実際の出火を想定し、避難経路・避難場所・誘導順をマニュアル化する。	5月のカンファレンス実施時に避難経路や避難場所・誘導順等を話し合う。 6月の夜間想定避難訓練で実践し、改善点を話し合う。	3か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。